

LEQ 集団活動プログラム 《 お芝居 》

タイトル	お芝居
大ジャンル：	言語
中ジャンル：	表現
小ジャンル：	演技・なりきり
使う道具：	台本
場所	室内
人数	2人～
内容	その場で台本を読んだり、動きをつけて表現して物語を演じる言語コミュニケーション向上を図るプログラム

5 領域

健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション	人間関係・社会性
		○	○	○

【流れ】

時間	内容	児童の予想される行動	支援員の動き
00:00	挨拶「今から活動を始めます。 台本の配布、説明	挨拶の際の正座や寝転んだり私語など集中力の維持	挨拶の正座ができていないかの確認 私語をしていないかにチェック
05:00	スタッフが例題として演じる。 その後みんなで台本を一緒に読んでみる。	低学年児童など文字が読めない児童がいる場合 読んでいる際の姿勢（寝転んでいないか等）	字が読めない児童がいる場合はスタッフが一人ついて一緒に読む。 姿勢はその都度座るように声掛けを行う
15:00	グループに分かれて担当の役を決めたり、実際に読んでみる	話し合いの際の集中力の維持ができていないか。 早く終わってしまった場合別のことをしてしまう。	話し合いにスタッフが一緒に入りサポートを行う。 終わった場合もう一回読んでみようなど声を掛ける。

25:00	グループ毎にみんなの前で発表する	見る側のグループの児童の姿勢の維持ができていないか（寝転んだりしていないか）	文字を読めない等サポートが必要なときには一緒に読むなどサポートを行う。発表しているグループの発表を見るように声を掛ける。その際姿勢が崩れていけば直すように促す
30:00	まとめ、終わりの挨拶感想を聞いてみる 「これで活動を終わります。礼。」	挨拶の前には正座がきちんとできているか。挨拶がきちんとできているか。	挨拶の前には正座をしてもらうように声を掛ける。全員が姿勢が整ったら終わりの挨拶を行う

アレンジパターン

- 1、セリフの一部を空欄にしてアドリブを入れてみる
（児童の想像力や表現力を引き出すために児童に話し合いの中でセリフを考えてもらう）
- 2、実際に動きをつけながら演じてみる
（動作をつけることでより表現力の向上を図る）

【実施のポイント】

- ・ 児童の興味や関心に沿った流れを意識する
- ・ 児童のスキルに合わせた内容を意識する
- ・ 児童の想像力や表現力を引き出す